

新型コロナウイルス感染症対策下における

若年性認知症支援コーディネーターの活動に関するアンケート 集計結果について

令和2年6月25日

認知症介護研究・研修大府センター

全国若年性認知症支援センター

1. 目的

新型コロナウイルス感染症対策が若年性認知症支援コーディネーターの活動に与えている変化を明らかにする。活動を続けるために行われている対策や工夫等を共有することにより、都道府県・指定都市で勧められる感染症対策下での施策推進の参考にしてもらう。

2. 対象と方法

1) 対象

全国47都道府県、5指定都市に設置された77相談窓口で配置された若年性認知症支援コーディネーター

2) 方法

回答は、インターネット上でのアンケートとし、都道府県・指定都市の行政担当者を経由してEメールで依頼した

3) 期間

令和2年6月4日(木)～12日(金)

3. 倫理的配慮

本調査の趣旨、個人情報の保護等について書面で説明した

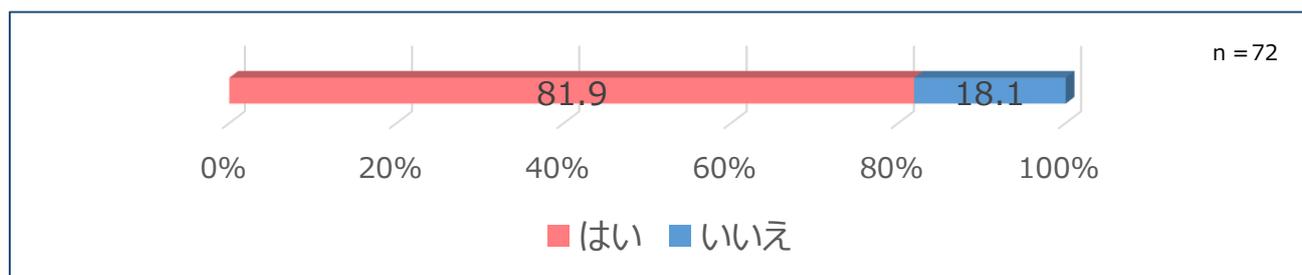
4. 結果

72の回答を得た(コーディネーターの連名や相談窓口で集約された回答を含む)

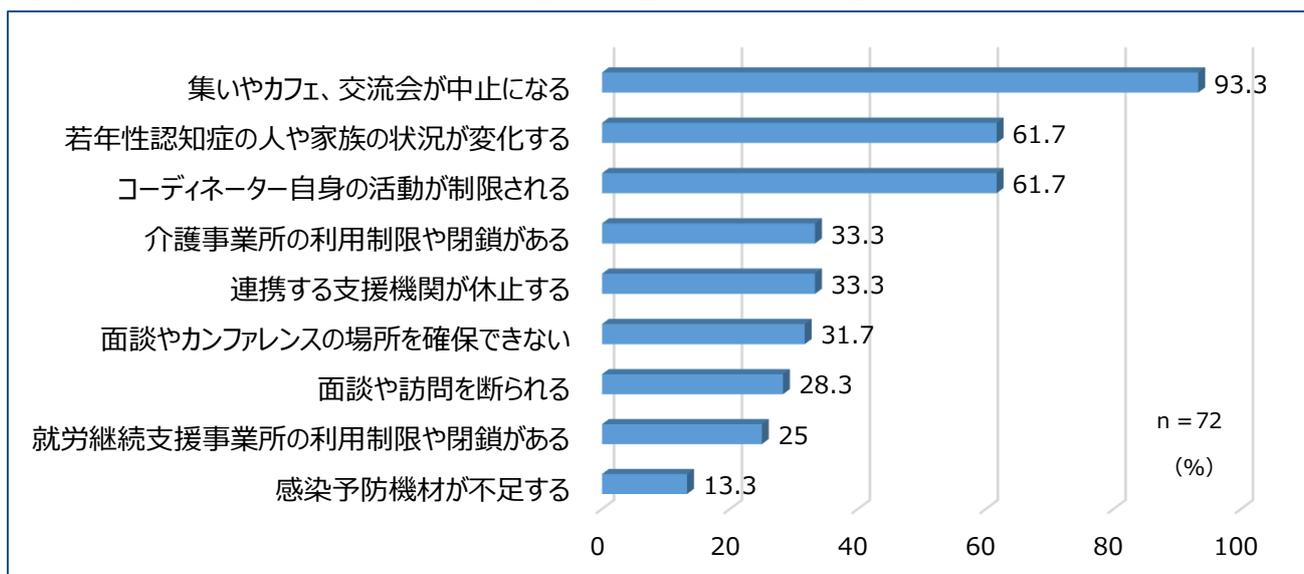
1. 若年性認知症支援コーディネーター活動への支障と対策

(1) 個別相談事業について

Q1-1 来所相談や訪問相談に支障が生じていますか？



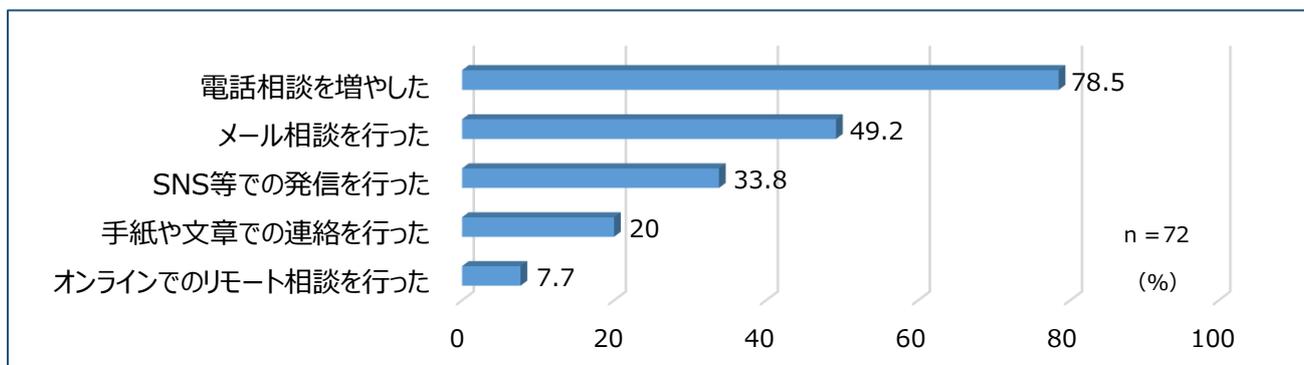
「はい」とお答えの方にお聞きます。どのようなことが問題になりますか？（選択式：複数回答可）



〈その他：自由記述（抜粋）〉

コロナ感染患者の発生地域からは、家族に訪問してもらうことが出来なかった
 遠方にある家族の行動制限があり、面談や見学などに支障があった
 相談者に面談をすすめるにこがった 外来診療から電話（リモートも）診療に変更となった
 出張相談会をとりやめた 等

Q1-2 来所相談や訪問相談に関して、どのような工夫をしましたか？ または考えられますか？（選択式：複数回答可）

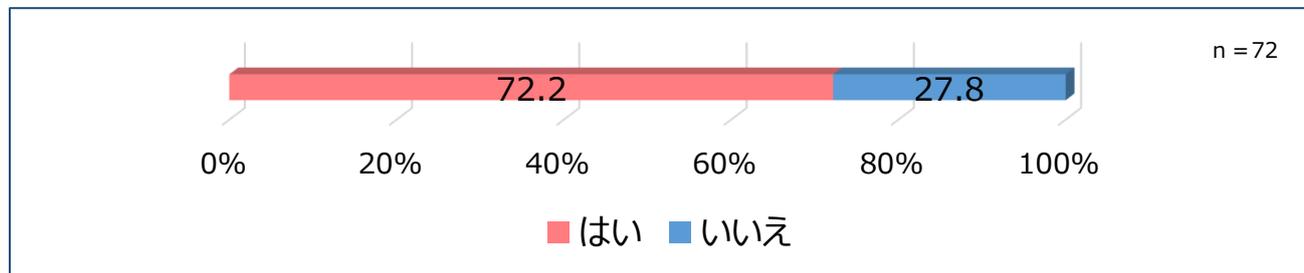


〈その他：自由記述（抜粋）〉

- ・機材
 検温、マスク使用、消毒、アクリル板設置などの感染予防対策を実施した（コーディネーター・相談者双方）
- ・空間
 来所面談時、3密を考慮し、広い部屋を急遽用意した 訪問の際、玄関先など訪問先の屋外で対応した
- ・代替手段
 電話会議でのカンファレンスに参加した オンラインでの「つどい」を試行した

(2) 市町村や関係機関との連携体制の構築について

Q2-1 ネットワーク会議の実施（計画）や地域のカンファレンスの参加等、連携体制の構築に支障が生じていますか？



「はい」とお答えの方にお聞きます。どのようなことが問題になりますか？〈自由記述（抜粋）〉

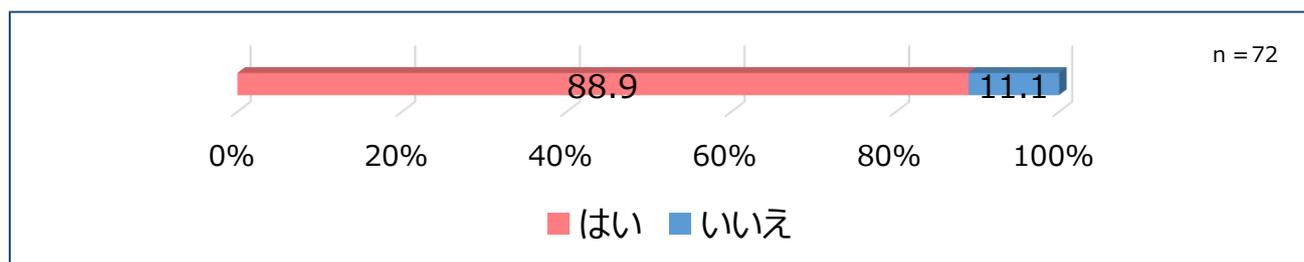
- ・直接会って会議や打ち合わせを行えず、連携が上手くとれない
- ・感染拡大予防や会場の確保ができないために会議を中止、または延期した
- ・年度が変わって新しい担当者と会えていない
- ・先が見えず企画自体が立てられない

Q2-2 連携体制の構築に関して、どのような工夫をしましたか？ または考えられますか？〈自由記述（抜粋）〉

- ・会議等の開催に関して
 - 密を避けるため会議の参加人数に制限を設けた
 - 書面会議に切り替えた
 - アンケートを郵送した
- ・再開時期については、9月以降や目途がたたない、年度内の開催自体を検討している
- ・メールや電話を使ったケースカンファレンスを行った
- ・情報発信に関しては、SNSを活用した
- ・オンライン会議を実施、あるいは検討中
- ・リモートで会議を行いたい、が、機材がない、準備ができない
- ・広報誌を作成し、支援機関との関係を築く

(3) 若年性認知症に係る正しい知識の普及について

Q3-1 ネットワーク研修や関係機関に対する講演や研修会の実施（計画）等の普及・啓発事業に支障が生じていますか？



「はい」とお答えの方にお聞きます。どのようなことが問題になりますか？〈自由記述（抜粋）〉

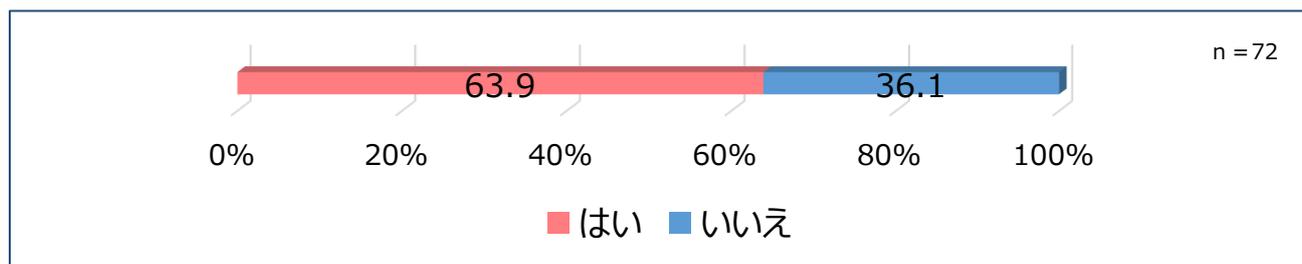
- ・予定している研修や講演会は、感染拡大防止等を理由に中止や延期した
- ・予定が立たない、企画しても実施できるか不安
- ・出前講座（企業・病院）を中止した
- ・本人とともに啓発する場を中止した
- ・研修を企画してもグループワークの実施が難しい

Q3-2 普及・啓発に関して、どのような工夫をしましたか？ または考えられますか？〈自由記述（抜粋）〉

- ・密を避けるため、研修の参加人数を減らす、会場を大きくする
- ・会議やカンファレンスと同様に、時期を見極め、感染予防策を十分にとって実施する予定
- ・7月から研修会を再開する
- ・冬季の研修会は、第二波や他の感染症も怖いので秋に集中させる
- ・研修会の再開時期は未定
- ・オンライン研修、動画共有サービスを使って啓発する予定
- ・研修会などの案内も SNS で情報発信する
- ・IT の活用は、できる人、できない人の差が激しいから難しい
- ・インターネットの利用は、環境整備と調整に手間と時間、お金がかかる
- ・自粛期間中は、ホームページの充実等、事務所で出来る作業を行っている
- ・集合や接触を避けるため、チラシやリーフレットの配布している
- ・コロナ禍でも稼働している媒体を活用しようとマスコミに対して働きかけた（テレビ・新聞）

（4）インフォーマルサービスを含めた社会資源の発掘や開発について

Q4-1 社会資源の発掘や開発事業の実施（計画）に支障が生じていますか？



「はい」とお答えの方にお聞きます。どのようなことが問題になりますか？〈自由記述（抜粋）〉

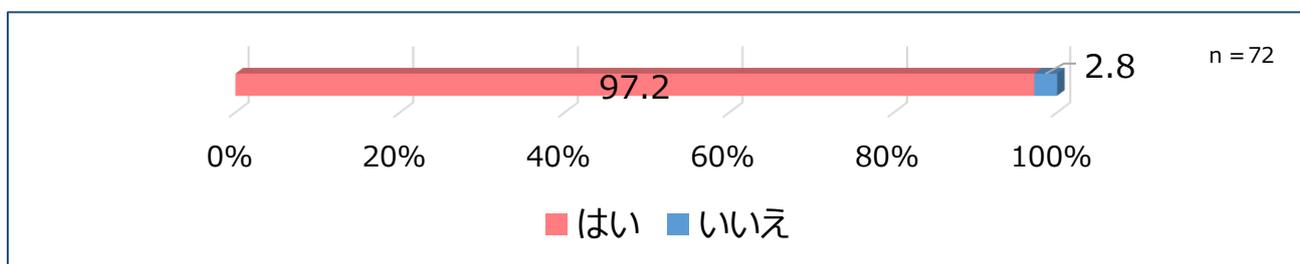
- ・地域の社会資源が動いていないため情報がとれない
- ・参考になる事業所の見学ができない
- ・一般社会の活動が以前のように復活するまでは、認知症の人との活動は難しい
- ・この状況では打つ手がない
- ・外出を自粛したことによって、連絡がとりやすくなった

Q4-2 社会資源の発掘や開発事業に関して、どのような工夫をしましたか？ または考えられますか？ 〈自由記述（抜粋）〉

- ・デスクで出来ることを探し、地域の情報の収集や整理を行った
- ・インターネットを活用し、他県や市区町村の情報を集めた
- ・次のアクションのため電話、メールやオンライン会議を使って情報交換を続けている
- ・他県のコーディネーターに電話で相談した
- ・新しい生活様式のもとでの社会資源の発掘や開発をしたい
- ・訪問可能となった場合でも、できるだけ少ない人数で行くようにしている

（5）認知症カフェや交流会等の運営や参加について

Q5-1 認知症カフェや交流会等の運営や参加に支障が生じていますか？



「はい」とお答えの方にお聞きます。どのようなことが問題になりますか？ 〈自由記述（抜粋）〉

- ・感染症拡大防止や会場の使用が制限されていることにより、中止、延期した
- ・再開の時期については、参加者を制限して6月や秋以降、目途が立たない
- ・交流会や本人ミーティングの中止によって、ピアカウンセリングができない
- ・持病を持った当事者が参加を見合わせている
- ・感染拡大防止のためボランティア活動ができない
- ・飲食禁止での開催になる
- ・主催者によって再開の基準（感染予防策）が異なるので困惑している
- ・新型コロナウイルスのケア要員になったので計画を立てられない

Q5-2 認知症カフェや交流会等に関して、どのような工夫をしましたか？ または考えられますか？ 〈自由記述（抜粋）〉

- ・開催できない期間は、電話やメール、文書での連絡をしている
- ・広報やお便りでの近況を報告している
- ・3密を避けるために、会場を大きくして人数を制限している
- ・屋外で開催する、時間を短縮する、体操やスポーツの中止、事前予約制をとる
- ・食事はやめて飲み物は使い捨て容器を使用する
- ・3密を避ける交流会を実施するのは難しい
- ・認知症の人が感染予防策を続けることは困難

・オンラインでの交流会を開催した

《回答いただいたコーディネーターに詳しい内容をお聞きました》

Q.「どのような思いでオンライン交流会をされたのですか」 A.「交流を途絶えさせないという思いからです」

Q.「どのツールを使って行ったのですか？」 A.「Web 会議ツール（Zoom）を使用しました」

Q.「ご案内はどうされたのですか？」 A.「招待メールを送りました」

Q.「何家族ぐらい参加されたのですか？」 A.「7 家族でした」

Q.「どのくらいの時間で行ったのですか？」 A.「30 分ほどでした」

Q.「スムーズに行えましたか？」 A.「音が出ない方等があり、電話を使ってやり方を説明しました」

Q.「どのような環境で行ったのですか？」 A.「ホストは事務所の PC で、参加者はスマートフォンの方もいました」

Q.「参加された方の感想は？」 A.「面白かったという声や徐々に顔が見られて嬉しかったという感想でした」

Q.「実施してみてどうでしたか？」 A.「試験的に実施しました。以前の形を復活させるために、室内ではなく外を歩
くような交流会から再開しています」

・コーディネーター同士の情報交換で、遠方のオンライン交流会に参加した当事者があった

・オンラインを実施したいが環境が整わない

・情報漏洩の観点からオンライン交流会を見送った

・オンライン環境が整わない人へのデジタル機器の貸し出しや操作指導を予定している

・動画共有サービスやブログで情報を配信した

《回答いただいたコーディネーターに詳しい内容をお聞きました》

Q.「どのようなきっかけで？」 A.「自粛を続ける中、当事者から応援動画を作ろうと声があがりました」

Q.「SNS で発信されたのですか？」 A.「はい。思いを共有するためにブログにアップしました」

Q.「反応はいかがでしたか？」 A.「会員だけではなく、多くの方々から“いいね！”をいただきました」

Q.「今までも動画配信を行っていたのですか？」 A.「いいえ、コロナで自粛が始まってからです。その後もエールをつ
なぐために動画を作成し、配信を続けています」

・チームオレンジでサポートした

《回答いただいたコーディネーターに詳しい内容をお聞きました》

Q.「チームオレンジとは？」

A.「認知症の人や家族の会、認知症サポーターや地域の専門職など 70 人ほどが集い、認知症の人のニーズと地
域のニーズをつなげる活動をしているチームです」

Q.「自粛要請期間は、どのような活動を行ったのですか？」

A.「当事者同士がお互いの近況を報告しあったり、認知症初期集中支援チーム員や認知症地域支援推進員の
メンバーから、会えなくなった方々に電話をする活動をしました」

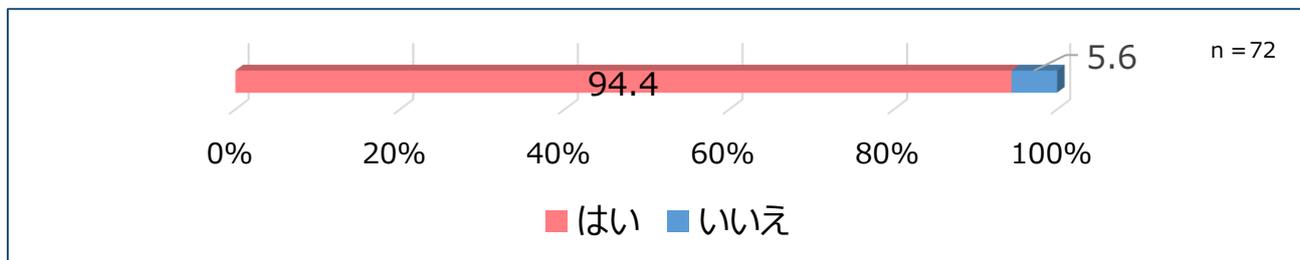
Q.「フレイル予防についても取り組まれたようですが？」

A.「自粛期間中、体操の動画コンテンツをローカルメディア（ケーブルテレビ）で数多く発信しました」

2. 若年性認知症のご本人やご家族への影響と対策

(1) ご本人の生活について

Q6-1 ご本人の生活に影響を及ぼしていると感じますか？



「はい」とお答えの方にお聞きます。どのようなことが問題になりますか？〈自由記述（抜粋）〉

- ・自粛要請の中で、外出の機会が大きく減っている
- ・介護サービスや障害福祉サービスの利用制限がある
- ・介護サービスや障害福祉サービスでの新規の利用が止められた
- ・医療機関への受診控えや介護サービス事業所への利用控えが起こっている
- ・入院や入居中の方は、家族や友人との面会ができなくなり不安定になっている
- ・飲食業や自営業の方は、経済的な打撃が大きく、今後もっと拡大するのではないかと
- ・スポーツジムや図書館に通っていた方は、居場所を失った
- ・友人の訪問などのインフォーマルサービスが途絶えている
- ・行動が制限できないため、感染のリスクが高まっている
- ・感染予防策（マスクや手洗い）の徹底がストレスになっている
- ・自宅で家族と過ごす時間が増えて、ストレスが増えている
- ・不安や孤立が拡大し、BPSD が出現した
- ・家にいる時間が増え、子どもに病気のことを知られ威厳がなくなった
- ・交流会の中止でストレスが増大している
- ・交流会の中止で情報を得る場が減っている
- ・病気の進行を心配している
- ・自粛で活動性が低下し、認知機能の低下が進んだ
- ・就労していた方が自宅待機になり、心身状態が悪化した
- ・同居家族がテレワークになったことで自宅での会話が増え、精神的な不安が軽くなった人もあった

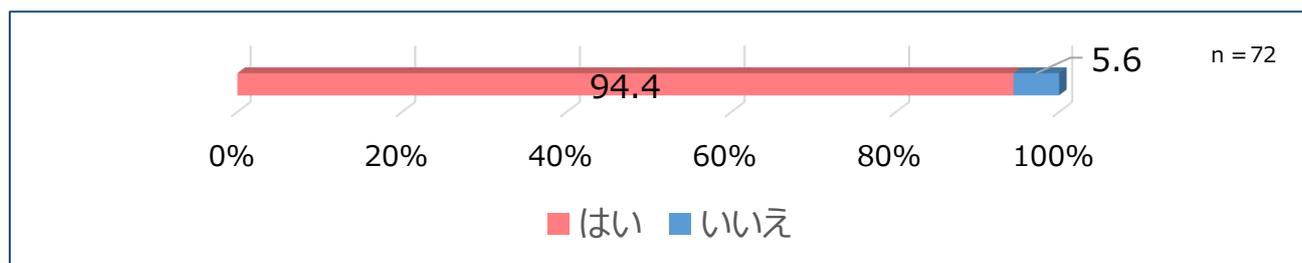
Q6-2 ご本人の生活に関して、どのような工夫をされましたか？ または考えられますか？〈自由記述（抜粋）〉

- ・丁寧に話を聞いたり、電話やメールでこまめに連絡をとったりした
- ・人と会わないよう早朝に散歩してもらったり、車でのドライブに切り替えたりした
- ・オンライン受診や家族のみの受診で感染リスクを下げた
- ・オンラインでリモート相談を行った

- ・生活リズムの維持や食事のバランス、運動などの生活習慣の助言をした
- ・自宅で出来る体操や活動、気分転換になるアクティビティを紹介した
- ・この状況下でも新規で受け入れる事業所をケアマネジャーと一生懸命探した

(2) ご家族の生活について

Q7-1 ご家族の生活に影響を及ぼしていると感じますか？



「はい」とお答えの方にお聞きます。どのようなことが問題になりますか？〈自由記述（抜粋）〉

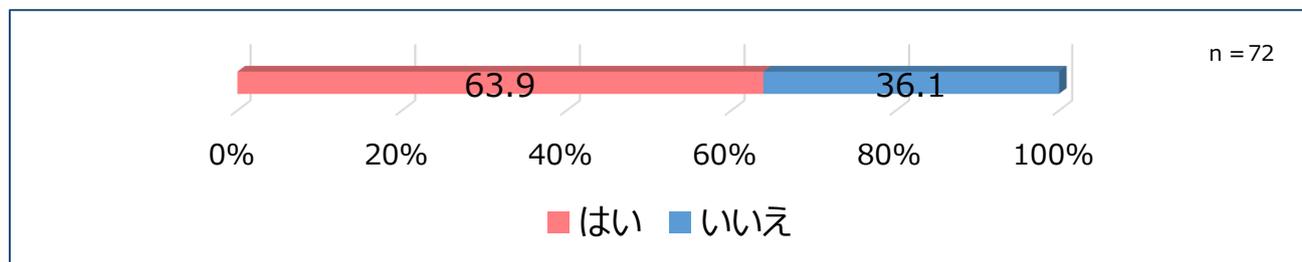
- ・介護や障害福祉サービスが利用できないことや家族のリモートワークが増えたことで、家族のストレスも増大した
- ・本人が自宅に留まることで、家族の就労も制限されている
- ・本人がイライラをぶつけてくることで介護ストレスが増大している
- ・趣味や外出など、家族もリフレッシュができない状態が続いている
- ・家族の収入減によって今後、サービスの利用に影響が出てくる
- ・入院・入居中の方の面会制限によって様子がわからず不安になっている
- ・看取りもできなく深刻だ
- ・オンラインで面会できる場所が少ない
- ・交流会やサロンの中止により、孤立感が増している
- ・密をさけた疎の環境が精神面で停滞感を生んでいる
- ・本人と一緒にいる時間が増えて、本人への理解が深まった

Q7-2 ご家族の生活に関して、どのような工夫をしましたか？ または考えられますか？〈自由記述（抜粋）〉

- ・電話やメール、オンライン、SNS、手紙等でのこまめな連絡をしている
- ・つながりを感じてもらうことが大切だと思って、連絡を絶やさない
- ・困窮した方に経済的支援（ローンの返済猶予申請）を行った
- ・窓越しでの面会やオンライン面会を行った
- ・ビデオレターを作った
- ・安全に活動できる環境について助言した
- ・日本認知症本人ワーキンググループ（JDWG）やNHK厚生文化事業団、大府センターが発行している冊子を郵送した
- ・受診の付き添いができないため、様子を聞き取り主治医に申し送った

(3) 企業等での就労継続について

Q8-1 企業等の新型コロナウイルス感染症対策（テレワーク等）が、若年性認知症の人の就労継続に影響を及ぼしていると感じますか？



「はい」とお答えの方にお聞きます。どのようなことが問題になりますか？〈自由記述（抜粋）〉

- ・出勤者が減る中で、同僚のサポートが得られにくくなった
- ・テレワークになっても一人では上手く仕事できていない
- ・テレワーク後の通勤が心配
- ・テレワークになるはずが、上手くできないと思われて休職になった
- ・テレワークになったが実質は自宅待機だった
- ・出社できないことで休職させられたケースがあった
- ・コロナを理由に仕事を減らされた
- ・真っ先に自宅待機を命じられた
- ・在宅勤務から復帰の見通しが立たない方がある
- ・職場環境の変化や生活リズムの変化が、肉体的、精神的にも悪影響を及ぼしている
- ・就労継続支援事業所が受注している仕事が減っている
- ・仕事がないから勤務日数が減り、収入が減った
- ・福祉的就労の見学・面接ができず、就労の機会を逃した
- ・就労支援事業所の職員がテレワークになったことにより休業した
- ・企業への訪問ができず、就労継続支援に影響があった

Q8-2 感染症対策下での若年性認知症の人の就労継続に関して、企業等でどのような工夫がなされているかご存じですか？ または考えられますか？〈自由記述（抜粋）〉

- ・一般的な感染拡大防止策やテレワーク化、勤務時間や出勤日数の変更以外の工夫はよくわからない
- ・オンライン会議で一日の振り返りをしている
- ・社内の感染予防の消毒作業など、ご本人ができる仕事を創出している
- ・就労継続支援事業所では、作業時に密にならないように机の配置や工程を工夫している
- ・本人の能力に合わせたテレワークの課題（検索業務、レポート作成）を出してもらえるとよいのではないかと
- ・一般の就労者と同じような対応が精一杯ではないかと

3. その他

Q9 ご意見等がございましたらご自由にご記入ください〈自由記述（抜粋）〉

- ・第2波、緊急事態宣言再発令等に備えて、動きを整理しておく必要がある
- ・マスク着用、手洗いの徹底、消毒などスタンダードな予防を徹底的に行うことで、通常通りの勤務を継続している
- ・未曾有の事態となっている昨今、どうしても若年性認知症の方々への理解不足による迅速な対応が鈍くなってしまうのは残念だが、だからこそ啓発活動にますます努めていきたいと思う
- ・どのような手段で本人同士が出会える場を作っていくか、考えなければならぬと感じている
- ・ICTの今後の活用はあっても直接会うことの機会の重要性は変わらないと思う
- ・オンラインによる業務が増え、デジタル機器の入手や手続き、操作を覚えることや設定に膨大な労力と時間を費やしている
- ・オンラインでの会議や集いなどを行う際は、参加者のWi-Fi環境・契約条件等の確認が必須である
- ・若年性認知症の人の就労や社会参加は、ある程度、余裕がある中で進められるものであるため、厳しい状況になるのではと考える
- ・デイスサービスや就労Bにつながったケースがあるが、金銭的な負担が増えたケースが数件ある
- ・就労支援事業所が福祉施設で見学が出来ずに就労の話が中断した
- ・いつまでつどいや対面のなごやかな交流を自粛しなければならないのか、活動の見通しがたたないのが悩みである
- ・今年度、どの程度、活動すれば良いのか分からないという懸念がある
- ・行政とコーディネーターの所属先とで、活動再開の目途についてどうするか等話が上手く進められない状況は、各地域でも起きているのではないかと想像する
- ・若年性認知症の集い（本人・家族）は他の都道府県ではどうしているのか知りたい
- ・今まで通りの生活が継続できるようにしていただきたい。新しい生活様式は難しいのではないかと

5. まとめ

今回の緊急アンケートでは、若年性認知症支援コーディネーターの活動への影響が具体的に確認された。

個別相談事業では、訪問を避ける中で電話やメール、リモート相談などの工夫によって相談事業を継続している様子がみられた。研修会などの啓発活動や交流会等は、全国各地で中止や延期の状況が続いているが、人との接触を伴わない形での啓発や、感染症対策を施した新たな形での再開を模索する動きが報告された。

若年性認知症の人や家族への影響も大きく、職場環境の変化や活用している機関の利用制限等により、本人、家族ともにストレスが発生している様子がみられた。自身の活動が制限される中でも、様々な工夫をして細やかにフォローを続ける若年性認知症支援コーディネーターの活動が報告された。

謝辞

回答にご協力いただいた若年性認知症支援コーディネーターの皆様、都道府県・指定都市の行政担当の皆様により感謝申し上げます。